

### 305) 北上川慕情

北上川の城跡に シルクのような雨が降る  
ふたり座ったベンチには あの日のままに花が散る  
なにも言わずに肩よせた あの面影はもういない  
季節はめぐり春が来て 思い出ばかりよみがえる  
北上川のあの日々に もう一度だけ帰りたい

北上川の空を 迷子のような雲がゆく  
君と泳いだ川べりに 清らかな水の流れ  
岸に上がってはにかんだ あの横顔はもういない  
季節はめぐり夏が来て <sup>いと</sup>愛しさだけがよみがえる  
北上川のあの日々に もう一度だけ帰りたい

北上川のせせらぎに 吐息のような風が吹く  
そぞろ歩きの<sup>こみち</sup>小径には コスモスの花揺れている  
花一輪を櫛にさす あの下げ髪もういない  
季節はめぐり秋が来て 哀しさだけがよみがえる  
北上川のあの日々に もう一度だけ帰りたい

北上川の城下町 真綿のような雪が降る  
手を取りあった坂道に 白無垢の樹が凍<sup>こご</sup>えてる  
寒さの中で微笑んだ あの薄化粧もういない  
季節はめぐり冬が来て せつなさだけがよみがえる  
北上川のあの日々に もう一度だけ帰りたい